

体験型防災学習 「地震が起きたらどうなる！」



実施
学校名

奥多摩町立奥多摩中学校

日時

令和6年12月23日（月）

場所

体育館

プログラム 概要

- ・元東京消防庁のハイパーレスキュー隊員として活躍し、その後、レスキュー隊の育成に取り組んできた方を講師に招き、被災したときに重要となる知識やとるべき行動について学びました。
- ・生徒は、転倒家具から脱出したり、倒壊した家屋から乳児を救出したりするなど、地震が発生した時に起こる出来事を、実際の災害に近い状況で体験しました。

体験風景

1 地震発生直後の被災地の状況



2024年1月1日に発生した、能登半島地震の現地の様子がスクリーンに映し出されました。倒壊した建物や救助活動の様子、ビニールハウス内で避難生活をおくる被災者の状況などについて説明がありました。

2 転倒した家具に挟まれる体験



生徒は、家具に挟まれた状態から脱出する体験を行いました。講師から、大地震発生時は、家具がもの凄い勢いで倒れてくるため、家具を固定するなど、転倒防止対策が大切であるとの話がありました。

3 テコなどを使った救出方法の実演



講師が、テコの原理の活用やタイヤ交換用ジャッキを利用して、重たい家具を持ち上げる方法を実演しました。生徒は、真剣な表情でその様子を見学し、身近なものや知識が人命救助につながることを学びました。

4 倒壊した建物から乳児の救出体験



倒壊した建物を模した狭いトンネルを這って移動して、乳児の人形を抱えて戻って来る体験をしました。生徒は、狭い暗所で障害物を避けつつ、乳児を安全に救出することの難しさに悪戦苦闘していました。

参加した 生徒の声・ 反応

- ・今回の体験を通して、命の大切さや、いざという時にどう対応すればいいかが、よく理解できました。今後、この体験を生活に生かしていこうと思います。
- ・これまでも防災について学んだことはありましたが、今回は初めての体験ばかりで役に立つものばかりでした。これからもこの体験を生かしていきたいと思います。
- ・能登の地震から1年が経とうとしている中、現地の動画を見てビニールハウスで暮らしていた人がいることにとっても驚きました。あらためて、災害の恐ろしさを知ることができました。